

---

# 唯心詩集

まったりorz

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

唯心詩集

### 【Nコード】

N0094C

### 【作者名】

まったりorz

### 【あらすじ】

色んな詩を載せてく予定です。一篇一篇短いです。

## 木漏れ日

【初夏のゆうべ】

向かい合って

でも目をそらして

それでも夕陽が君の目の色を輝かせるから

僕はたまらなくなつて

気付くと目があつてしまつたりしてて

慌てて目をそらすんだ

そんな遠回りがどこか嬉しい

初夏のゆうべに

君はあいまいに笑って

また明日、と言って

寂しいけれど温かい

温かいけどそれはどこか熱くなつて

ああ、恋なんだ、と気付くんだ。

【雨ふらし】

アメフラシが空の上から

僕等を笑う。

うつすら透けるシャツから

きらきら零れるシズクを笑う。

少し下がった体温が愛しい。

君は困った顔で

濡れた前髪を指でいじって

僕の手を握る。

少し下がった体温が愛しい。

アメフラシは、困ったやつだ。

それでも嫌いじゃないって思うのは

この体温が愛しいから。

【優しいトゲ】

大丈夫

君は言う

そんなの嘘だ

僕は言う

また君に悲しそうな顔をさせてしまう

やっぱりダメだよ

僕は言う

そんな事ない

君は言う

信じているから

君は最後まで、悲しく笑う

君は優しいトゲを指す

【思い出】

忘れられない事ばかり思い返して

それは夏の空に浮かぶ雲のようで

はつきり白く輝いて

思い出す度に、忘れられなくなって

僕は一人

思い出と一緒に

寂しくないよ

僕にはコイツがいるからね

僕が忘れない限り

僕は一人でも寂しくないよ

だから悲しまないでいいんだよ

そう呟いて

アルバムを閉じた。



眠気

【倦怠】

衝動もなく

熱情もなく

ただ緩い空気の中

色あせたシーツの上に

冷たい嘘を落として

惰性と共に眠る

【混沌】

優しい言葉を眺めても

そこには何か偽善が交じる

双眼共に異常なし

きつと世界が悪いんだ

【落葉】

色付かなければ見向きもされず

葉の裏に自我を隠し

風化してみても

まだ残る浅はかな主張が

こんなにも侘しいものか

### 【蓄積】

後悔するのが素晴らしい

楽天家の君はいう

後悔するから辛いんだ

悲観的な僕がいう

交わらない主張は

いつだって君が勝って僕は口ごもる

そういう世界に住んでいる

僕は妙に納得しては

何かが溜まっていくのを感じる

### 【消える朝】

自分自身の存在を否定し

自分の存在を確かめる

愚かな事だと知ってはいるが

それ以上に方法はないじゃないか

朝は消えてしまった

輝かしい朝は

目を背けている事も

知ってはいるんだが。

### 【彷徨う】

彷徨う

自分を探して

自分の終わりを探して

そして

たいした事じゃあないと

呟いてまた彷徨う

### 【睡眠薬】

自分を壊すその薬

自分が壊れる感じが好き

何にもわかんなくなるのが好き

自棄になつてゐる自分が好き

世界が揺らぐ

境界なんてなくなるの

自分だけの世界

柔らかい帳が私を包む

それでも私は眠れない

でも

夢のような世界にいるの

ジャンキーだって笑えばいいわ

眠気に支配されてるの

そんな世界が一番好き

虚言

【大丈夫】

大丈夫

これほどまでに優しく

これほどまでに残酷な言葉は

他にあるだろうか

【自殺願望】

同情なんていらない

優しい嘘もいらない

本当にほしいものが手に入らないなら

もう何にもいらない

【煙草】

死ぬまでに吸った本数が

私が持て余した時間の数だ

【青】

それはずっと青く

永遠に青く

ひたすら遠くなって

追いかける虚しさを知った時

私は悲しく微笑んだでしょう？

【嘘】

どれが本当の自分が

わからなくなって

笑顔で嘘を

言えるようになった

いつかの日にも

やっぱり空は笑っていて

ゆっくりと時間が過ぎた

たくさんの自分がそこには居た

それでも

たくさんの中から

一番良い子を

自分だって思うのは

都合が良すぎるね

やっぱり空は笑ったままだ

### 【優しさ】

特別ななんかじゃなくて

大切ななんかじゃなくて

必要ななんかじゃなくて

でも、嫌いじゃない

### 【五月】

ふわふわ香る五月の日

ぼーっとしてたら追いてかれる

急いで急いで時間は早い

楽しくないけど

笑顔をつくり

誰のためだか紅をさす

女でいるのは面倒だ

# 【路地裏】

路地裏はいつも雨

そこは僕等の唯一の居場所

ゴミの中に埋もれるように

隠れるように

僕等は身を寄せ合って

「何か」から必死に逃げてるんだ

誰かが僕等をゴミだと言った

誰かが僕等を鼻で笑った

いつまでそんなところにいるの？と

それでも僕等は

必死に抗って

僕等である事を望む

路地裏に、光はない

それでも僕らは在りつつける

冷たい雨に打たれ続ける。

微笑

「青い傘」

傘のうえ、暗い空。

雨の音、私を責める。

このままじゃダメだと思うけれど  
春は暖かい風を運んだけれど

私は上手く笑えないまま。

雨は毎日私を濡らす。

私は毎日傘をさす。

「不自然」

悲しそうにしているのは

涙を流せないから？

どこか遠くを見つめるのは

居場所を見つけれないから？

そうやって

泣きもせず、嘆きもせず

寂しそうに微笑むんだね

瞳の中に

どうしようもない純粹を

持て余したまま

「空漠」

荒んだ世界の中

立ち尽くして

ぼんやりと境界の外を見る

どこまでも幸せな人達は

自分に笑顔を向けるけれど

上手く笑えないままだから

私はぼんやりしたままで

差し出された手に

戸惑っている

誰か一緒に泣いて下さい。

どこかにさらって行ってください。

そんな事、言う勇氣もないままで

幸せそうな笑顔を

ただぼんやりと見つめ続ける。

「雨」

雨が流した痛みなら

絆創膏の下にある

君が流した涙なら

私の心の奥にある

雨の叫びが聞こえたら

君の言葉を思い出す

「不可侵」

どこに隠れているかわからないなら

全てを拒絶すればいい

不器用にしか生きれない君は

ただ痛みで思い起こせばいい

何かを守り通すために

その身を自ら滅ぼしたとしても

内部から壊されるよりは

君の手で終わりを迎えばいい

花は枯れることを知らない

褪せることを知らない

ただ、君だけがそれを知って

悲しい微笑みを覚えたなら

花は君のために咲くだろう

その命とひきかえに



僕等

「こわされる」

意味もない不安が巣食っていて

意味がないからまた不安になって

どこまでも四角い世界にいる

せめて言葉に出来たなら

まだ何とかなりそうなのに

実態のない不安だけ

ぐるぐると蝕む

「傷跡」

小さな痛みが一つ

また一つ

気付かぬ振りをして

曖昧に笑う

小さな傷は薄紫

きつとそこから腐乱する

作り笑いの仮面の下

致命傷になるまで

少しずつ、静かに数を増やす

「朝」

朝は夜の延長で

笑顔は寂しさを連れてきて

眠気は悲しい夢を呼ぶ

さよならも言わずに別れた人がいて

生きる事は忘却と共にあつて

僕らは毎日死んでいる

また一つ何かを失った朝に

僕らは全く気付けない

「業」

眩む陽射しから

僕らは目を伏せて

階段を転げ落ちるように

重力に逆らえずにいる

堕ちるなら

手を取り合って

狂うなら

殺し合って

冷たい現実を抱えきれない僕らは

足元に後悔を引きずりながら

影を探して歩いていく

「終着」

喧騒と沈黙を繰り返し

季節は過ぎていく

僕等は何かを見つけたのかもしれない

僕等は何かを失ったのかもしれない

ただ全ては流れて行つて

何一つ終わりなんて見えないから

僕等は限られた時間に終わりを創る

桜が散れば春の終わり

梅雨が過ぎれば初夏の終わり

木の葉が消えれば秋の終わり

雪が溶ければ冬の終わり

繰り返し繰り返し全て終わらせていく

「本当の終わり」なんて見つけられずにいるけれど

それが

「本当」なのかもしれないね、

なんて、肩を竦めて笑ってみたりして。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0094c/>

---

唯心詩集

2010年10月9日00時58分発行